

会議記録

会議名称	令和5年度 杉並区体育施設指定管理者評価委員会		
日時	令和6年1月22日（月）午後2時00分～午後4時30分		
場所	第3・4委員会室		
出席者	委員	4名	齊藤委員（区民生活部長）、石河内委員（スポーツ振興課長） 細谷委員（地域施設担当課長）、齋藤委員（社会教育主事）
		1名	国士舘大学大学院 特任教授 菊 幸一
	事務局	2名	スポーツ振興課計画推進担当係長、計画推進担当1名
配付資料	・次第 資料1 杉並区体育施設指定管理者評価委員会設置要綱 資料2 参考：基本的な質問事項（例示） 資料3 杉並区体育施設指定管理者ヒアリング評価表 資料4 令和5年度杉並区体育施設指定管理者評価委員会評価表		
会議次第	1 開会、ヒアリングにあたって 2 指定管理者ヒアリング 3 総括 4 閉会		
<p><会議要旨></p> <p>1 開会、ヒアリングにあたって 自己紹介。 事務局より、本日の評価委員会の進行の説明を行った。</p> <p>2 指定管理者ヒアリング 各指定管理者の事業計画の説明（10分）に対し、質疑応答（20分）を行った。</p> <p>（1）杉並スポーツ・カルチャー共同事業体 指定管理施設：永福体育館、下高井戸区民集会所・運動場、松ノ木運動場</p> <p>【主な質疑】</p> <p>○アウトリーチ活動、地域貢献の目的と継続的な取組とするための今後の展開は。</p> <p>→外部に出ていくことが最初の目的。令和3年度からアウトリーチ活動を始めたが、地域コーディネーターが役割を担い、令和6年度から拡大予定。アウトリーチに参加した方々をどのように施設に呼び込めるかを目標にしている。</p> <p>○地域コーディネーターは誰が、どんな役割でやっているのか。</p> <p>→指定管理者内の事業担当が行っている。今行っている活動から新たな輪を広げていくように取り組んでいきたい。</p>			

○永福地域和泉センター協議会との連携協力はどうか。コミュニティふらっと永福との現在の関係と今後の展開予定は。

→センター祭の協力をしている。区内の南地域でできることを考え、コロナ禍を踏まえてデジタルARのスタンプラリーを行った。令和6年度はコミュニティふらっと以外の公共施設とも連携を強化していきたい

○フィットネスとスポーツを区分して、スポーツジムの増加でフィットネス人口は増えているが、スポーツの人口がコロナ禍も相まって少なくなっている状況がある。ビーチコートではスポーツが多いと思うが、それ以外の施設でスポーツに着目した取組と今後の取組や考え方についてうかがいたい。

→永福体育館では月2回の教室のネーミングを工夫したら、今まで利用したことがない方の利用につながった。スポーツに入りやすいネーミングを考えていくのが良いと思っている。

また、下高井戸運動場・区民集会所は区民集会所の教室事業の認知度が低いので、SNSを使用して情報発信をしている。松ノ木運動場ではノルディックウォーキング教室について、障害の有無にかかわらず参加できるので周知を強化していきたい。

【オブザーバーからの助言】

○日本人のスポーツ観にはトップレベルのスポーツと体育でやっているスポーツ、という二極化されたイメージがある。どうしたらその人にあった体の動かし方ができるか、ネーミングで参加のしやすさが変わるので今後とも工夫してもらいたい。

○どのような人たちがどんな状況でスポーツを継続しているのか、また、無関心タイプの方々にはどのような傾向がみられるかについてデータを蓄積すると説得力が出て来る。区外の方々の認識と区内の方々との認識にどのような差異があるのかないのかについても、今後知見を積み上げてもらいたい。

(2) TAC・FC東京・MELTEC 共同事業体

指定管理施設：上井草スポーツセンター、妙正寺体育館

【主な質疑】

○アウトリーチと出張事業の意義と目的は何か。継続的な今後の展開はあるか。

→地域の方にアプローチして運営を知ってもらおう。施設側が地域に伺い、地域の方にも施設にお越しいただく中で、地域に指定管理者の考え方を知ってもらおう。相互に協力して盛り上げていけるようなことを考えている。地域にプログラムをしていく中で、認知を広めていきたい。

○無関心、実行間近タイプや障害者が参加しやすい取組についての記載があるが、現在と今後の取組は。

→無関心タイプの方々にはSNSを活用して認知を増やしていきたい。スポーツ以外のことにも取組み、まずは施設に足を運んでいただけるようにしたい。東京都障害者スポーツ協会の協力で障害者への理解を深める研修を行った。また、当事者の方から施設への意見もいただいている。それらを生かし、呼び込む工夫をしていきたい。障害者トイレ、更衣室が充実しているという声もあるので活用していきたい。

○上井草「結いの会」との交流があるが、「結いの会」を通じてゆうゆう館との交流や町会との交流は。

→昨年度ゆうゆう館との交流があったと思う。妙正寺体育館は町会との交流よりは小学

校、中学校の先生からのアプローチが多く、そちらとの交流が多い。

○コロナ5類移行後の利用促進のイベントや事業の手法に工夫があるか。

また、コロナの影響については、フィットネス系よりも団体スポーツの方が、活動の回復が厳しいのではないかと思うが、実感としてどうか。アプローチの手法の考えは。

→団体スポーツはそこまで減っていない認識である。

課題としては施設の認知度が低いのでチラシの配布地域を拡大したところ利用者数が増加した。スポーツに抵抗がある層にも来てもらう工夫が必要と考えている。

また、スポーツに限らず文化的な取組も必要と考えている。

○上井草スポーツセンターの指定管理者を長期間やってデータが蓄積していくと思うが、オーディエンスの違いに応じた戦略はあるか。

→若者向けはインスタグラムなどのSNSを中心に、コロナ後は高齢者が利用を控えているので、フィットネス系の感染恐怖のイメージを払拭していきたい。高齢者の事業を行っていることも発信していきたい。長寿応援ポイント事業も今後参加していきたい。

○発信が得意な方もおり、指導員も信頼関係を築けているので伝えていけると良いと思う。

○上井草スポーツセンターは施設が老朽化していると思うが修繕計画はいかがか。

→利用者の安全にかかわる部分について重点的に優先順位をつけ、区と相談しながら行っている。

【オブザーバーからの助言】

○健康施策の中では口コミ等の戦略が有効性をもって展開されることがある。地域とのつながりの中で、より戦略的な発信に取り組んでいてもらいたい。

(3) コナミスポーツクラブ・杉並建物総合管理協同組合共同事業体

指定管理施設：大宮前体育館、荻窪体育館、高円寺体育館

【主な質疑】

○地域団体と協力した地域団体のニーズに応える活動について事業者として良かった点と今後の展開は。

→体育館の認知度が未だ低いので、まずは施設を知っていただき利用してもらおう。施設の利用が利用者の健康につながっていった点が良かった。今後に関しては、スポーツだけではなくカルチャーの取組も行いたい。スポーツは苦手でも健康に興味がある方向けに簡単健康測定などを進めていきたい。

ヨガだったり、簡単な体操の教室の回数を増やし、朝、昼、夜満遍なく行うことによって、来館したら何かできる環境を作れればと考えている。

○防災訓練、ラジオ体操、夜警活動等の地域活動は継続的に行っているか。

→ラジオ体操は依頼があった時に行う。夜警活動は毎月、防災は7月に立ち上げ訓練を行い、10月9日のスポーツフェスティバルでは防犯イベントと縁日のようなものも行っている。

また、初めての方ツアーに地域の方を招き、地道に活動している。

○障害者利用を増やすために地道に取り組んで無関心層へアプローチをしている。まずフィットネスの領域につなげているが、いわゆるスポーツへの取組の工夫や考え方は何か。

→まずは個人での利用を促進する。仲間がいると継続的な活動になる。個人での参加のハードルを低くしていきたい。荻窪体育館では親子向けの教室を設置し、家族でのスポーツの参加も進めている。将来の部活動にも繋がると思っている。高円寺体育館は子ども向けに体操教室やサッカー体験、走り方教室などの教室を行っている。

○ジュニアだけでなく、高齢者もスポーツの活動をしている。高齢者のターゲティング戦略はあるか。

→走ってはいけないウォーキングフットサル、テニスコートを全面走り回るテニスが厳しい人はピククルボールの教室も用意している。

○地域との活動を重視されていると思うが、地域特性の分析は進んでいるか。

→大宮前体育館は地域愛が強い方が多い。初心者が入りやすいように、初心者向け教室を増やして行きたい。荻窪体育館もハードルを下げることを意識し、子ども向け教室を増やして行きたい。

【オブザーバーからの助言】

○ゆるめのスポーツ教室を上手なネーミングでラベリングしていくと、より効果的ではないかと考える。

○地域との活動を重視されていると思うが、地域の分析を進め、今後は3館を面にして事業展開してもらえるとよいと思う。

3 総括

- ・評価結果については、どの指定管理者も「協定書や事業計画のとおり業務が実施され、かつ、業務の質が全体的に確保されている。」ため、A評価とすることとなった。
- ・各施設の取組に応じた、コメントについて意見交換を行った。

(1) 杉並スポーツ・カルチャー共同事業体

全体的な指針が明確であり、事業展開もスムーズ。

単に量的な増加を追うのではなく、世代別、区域別等、さまざまな視点からスポーツ施設の実態と初心者がスポーツを始める要因のデータを蓄積していくことも今後必要である。

地域のスポーツを盛り上げていくため「地域コーディネーター」の説明があったがその役割を明確化し、効果や実績を示していけるよう期待したい。

(2) TAC・FC東京・MELTEC 共同事業体

高齢者へのアプローチや多文化活動の活用は初心者の利用拡大にとってはよいが、様々な取組を今後のスポーツ施設の有効活用にどうつなげていくのか、目標人数の達成に向けてどう取り組んでいくのか、全体的な見通しがわかりづらい点がある。

上井草スポーツセンターは、区内の中で一番室場がそろっているため、「スポーツ」の魅力発信にも主体的なアプローチが必要。

また、明確な修繕計画を考え、区担当者とも今後も継続的に話し合っていくことを期待する。

(3) コナミスポーツクラブ・杉並建物総合管理協同組合共同事業体

いろいろな地域団体とのつながりを積極的に行っている。

また、スポーツはもとよりスポーツ以外の取組も行われており、施設利用につなげるアプローチが行われている。

施設相互の連携もよく図られているが、さらに相互連携を拡大し、その効果や課題を示し、他のグループにも示せるよう期待したい。

障害者への積極的なアプローチを今後も継続してほしい。

4 閉会